

平成 28 年度(後期)海外渡航助成金報告書  
～AGU Fall meeting 2016 に参加して～

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻  
修士課程 2 年 石田 寛史

2016 年 12 月 12 日～16 日までアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコにて開催された AGU Fall meeting 2016 に参加し、ポスター発表を行いましたのでその成果報告を行います。

今回私が発表した研究テーマは「Improvement of a picking algorithm: real-time P-wave detection by kurtosis」です。内容は、緊急地震速報の P 波検知に用いられている振幅の短時間平均と長時間平均の比の値に着目する方法よりも振幅の変化に敏感な、kurtosis (尖度) という指標を用いて、P 波検知をリアルタイムで行い、従来法よりもより精度良く (早く) P 波を検知できるかどうかを評価するというものです。

ポスターを入念に作成したことが功を奏し、たくさんの方が発表を聞きに来て下さいました。その来てくださった方々に一人一人に英語で一生懸命に説明すると、海外の方は大きく頷いて相槌をうってくださり、相手に伝わっているということの自信になりました。また緊急地震速報以外の分野を専門としている方々、そして参考としている既往研究の著者の方々もポスター発表に来てくださり、説明後の議論では、多くの発見があると同時に、貴重なアドバイスもたくさんいただきました。

AGU はおよそ 2 万 4000 人が参加する学会ということもあり、非常にたくさんの方の研究発表がありました。連日行われる口頭発表、ポスター発表では熱い議論がなされており、私もその議論の中に入れるようになりたいと強く思いました。

私は一人一人とより深く議論ができるポスター発表が好きなこともあり、多くの時間をポスター会場で過ごしましたが、その中で感じたことは自分のポスターを如何に魅力的にし、足を止めていただくかということでした。何千枚もあるポスターから、わざわざ足をとめて見てやろうという気持ちにさせるためには、図、写真を効果的に使用することはもちろん、内容を簡潔に、なおかつキャッチーに書いてあるかということが大切になってきます。如何に研究内容が魅力的であったとしても、欲張って自分のやった研究内容をすべて書いた原稿のようなポスターや、レイアウトがきれいではないポスターは自然と視界から外されてしまいます。このことは自分があの会場を歩いたからこそ実感できたことです。

今後は、発表後の議論でいただいたアドバイスを自身の研究に反映させ、自身の研究をよりよいものにしていくつもりです。

最後になりましたが、今回海外渡航旅費を援助してくださり、ありがとうございました。

日本地震学会及び関係者の皆様に深く御礼申し上げます